◆TOPICS

田んぼの科学教室

小学生の食育や理科教育の一助を目的に2005年から継続開催している「田んぼの科学教室」を、15回目を迎えた今年も大仙研究拠点（秋田県大仙市）で７月５日（金）に開催しました。

地元大仙市内５校の５年生128名と引率の先生９名が参加し、会議室での講義と試験圃場での体験・観察の２部構成で実施しました。

屋内講義では、お米ができるまでの作業やイネが育つ過程、雑草や病害虫の防除、品種の改良に関すること、大豆の品種や転換畑における栽培、生長の仕組み、根粒菌の役割などについて、スライドによる解説のほか、お米と大豆、イネと雑草のノビエの実物観察や簡単なクイズを交えながら説明しました。児童からの質問では「農家さんが一番困っていることは？」といった講師役の職員が一瞬戸惑うものもありましたが、「困るものの一つは天候。天候によってイネの生育や病気、雑草の状況が変わるので、種まきから収穫まで栽培管理は気が抜けない。」と回答していました。

屋外での体験・観察では、大豆圃場に児童が入って大豆を引き抜き、根に着床した根粒を観察しました。根粒を指でつぶすと内側はピンク色をしており、その成分はヒトの血液に含まれるヘモグロビンに似た働きをしていることを説明したところ、児童たちは大変驚いた様子でした。

その後、児童たちは40種類の品種を栽培しているイネの展示圃場や稲作に使う大型の農業機械を見学し、品種の特徴などを熱心にメモしていました。

児童に感想を聞いたところ、「雑草や害虫やイネの病気や冷害など知らないことばかりでした。」「いろいろな稲が大きくなった時も見てみたい。」「大豆と根粒菌は互いに助け合って生きていることに驚きました。」「自分のグループがクイズを全問正解できてうれしかった。」など、楽しんだ様子でした。

（総務部総務課大仙管理チーム）

稲と雑草のノビエの見分け方を体験